

特別活動 (中学校)

特別活動と道德との関連はどうなっているのか。

1 特別活動と道德教育 【特別活動の目標】

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

特別活動の目標には、心身の調和のとれた発達と個性の伸長、自主的、実践的な態度、人間としての生き方についての自覚、自己を生かす能力など道德教育がねらいとする内容と共通している面が多く含まれており、道德教育との結び付きは極めて深い。とりわけ、特別活動における学級や学校生活における望ましい集団活動や体験的な活動は、日常生活における道德的实践の指導をする重要な機会と場である。

具体的には

例えば、自分勝手な行動をとらずに節度ある生活をしようとする態度、自己の役割や責任を果たして生活しようとする態度、よりよい人間関係を築こうとする態度、集団や社会の一員としてみんなのために進んで働こうとする態度、自分たちで約束をつくって守ろうとする態度、目標をもって諸問題を解決しようとする態度、自己のよさや可能性に自信をもち集団活動を行おうとする態度などは、集団活動を通して身に付けたい道德性である。

また、生徒の悩み、学級や学校生活における葛藤などの道德性に関する問題は、学級活動における指導と深いかわりがある。

学級活動の内容の取扱いについては、「第3章 道德の第3の1の(3)に示す道德教育の重点などを踏まえること」と示している。

【学級活動】

活動内容(1)の「学級や学校の生活づくり」の内容として、学級や学校における生活上の諸問題の解決、学級内の組織づくりや仕事の分担処理、学校における多様な集団の生活の向上を示している。

活動内容(2)「適応と成長及び健康安全」の内容としては、思春期の不安や悩みとその解決、自己及び他者の個性の理解と尊重、社会の一員としての自覚と責任、男女相互の理解と協力、望ましい人間関係の確立、ボランティア活動の意義の理解と参加、心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成、性的な発達への適応、食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成を示している。

活動内容(3)「学業と進路」の内容としては、学ぶことと働くことの意義の理解、自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用、進路適性の吟味と進路情報の活用、望ましい勤労観・職業観の形成、主体的な進路の選択と将来設計を示している。

この活動は、生徒がよりよい生活を築くために、諸課題を見だし、これを自主的に取り上げ、協力して解決していく自発的、自治的な活動である。このような生徒による自発的、自治的な活動を通じて、望ましい人間関係の形成やよりよい生活づくりに参画する態度などにかかわる道德性を身に付けることができる。

これらの活動を通じて、生徒一人一人が人間としての生き方について幅広く探求し、心身の健康の保持増進に努め、豊かな人間性や個性の育成を図ることは、道德性の育成に資するものである。

これらのことは、生徒一人一人が現在及び将来の生き方を考える基盤になるものであり、自己の在り方や生き方を見つめ、自己の目標を定めて努力していくことは、道德性の育成に密接なかわりをもっている。

【生徒会活動】

生徒会の計画や運営，異年齢集団による交流，生徒の諸活動についての連絡調整，学校行事への協力，ボランティア活動などの社会参加を通して，学校生活の充実と向上を図る活動が行われる。

【学校行事】

学校生活に秩序と変化を与え，学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を通して，望ましい人間関係を形成し，集団への所属感や連帯感を深め，公共の精神を養い，協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的，実践的な態度を育てる指導がなされる。

生徒が集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し，生活上の諸問題を見だし，これらを自主的に取り上げ，協力して解決していく自発的，自治的な生徒会活動は，道徳的实践力を豊かにする上で有効適切であり，それによって生徒会活動が円滑に運営されることも期待できる。

特に，職場体験やボランティア活動などの社会体験や自然体験，文化や芸術に親しむ体験，幼児，高齢者，障害のある人々と触れ合う活動を通じて，思いやりの心，勤労や奉仕の精神，公共の福祉，心身の健康，協力，責任，公德心などにかかわる道徳性の育成ができる。

2 特別活動と道徳の時間

特別活動は，道徳の時間に育成した道徳的实践力について，よりよい学校や学級の生活や人間関係を築こうとする活動の中で実際に言動に表すとともに，集団や社会の一員としてのよりよい生き方についての考えを深めたり，身に付けたりする場や機会でもある。

そして，生徒が特別活動における様々な活動において経験した道徳的行為や道徳的な実践について，道徳の時間にそれらについて取り上げ，学級の生徒全体でその道徳的意義について考えられるようにし，道徳的価値として自覚できるようにしていくこともできる。

さらに，道徳の時間での指導が特別活動における具体的な活動場面の中に生かされ，具体的な実践や体験などが行われることによって，道徳的实践力と道徳的实践との有機的な関連を図る指導が効果的に行われることにもなる

特別活動では，特に「体験的な活動」が重視されており，学校行事などの中で具体的に示されている。

具体的には

例えば，

旅行・集団宿泊的行事においては，「平素と異なる生活環境にあって，見聞を広め，自然や文化などに親しむとともに，集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと。」とした。

勤労生産・奉仕的行事においては，「勤労の尊さや創造することの喜びを体得し，職場体験などの職業や進路にかかわる啓発的な体験が得られるようにするとともに，共に助け合って生きることの喜びを体得し，ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるような活動を行うこと。」となっている。

これらは，特別活動において道徳性の育成にかかわる体験を積極的に取り入れ，活動そのものを充実させることによって道徳性の育成を図ろうとすることによる。そして，このような体験活動における道徳的価値の大切さを自覚し，人間としての在り方や生き方という視点から体験活動を考えることができるよう道徳の時間を工夫し，連携を図っていく必要がある。

生徒が特別活動における様々な活動において体験した道徳的行為や道徳上の事柄について，道徳の時間にそれらを位置付けて取り上げ，学級の生徒全体でその道徳的意義を考えられるようにし，道徳的価値として自覚できるようにしていくこともできる。さらに，道徳の時間での指導が特別活動における具体的な活動場面の中で生かされることによって，それぞれの活動がより効果的に行われることにもなる。

特別活動と道徳の時間との安易な関連付けは，逆に双方の学習効果を低下させることになりかねない。両者の特質をしっかりと理解した上で，それぞれの特質を生かして関連付けることが必要である。